

# 糸満市少年の主張大会

学校だより

# 和

第 10 号

三 和 中 学 校

発行 與島 康仁



本校代表二名が堂々と発表

自分の夢と向き合って  
三年 横井柊羽



私の将来の夢は、獣医師になることです。

もともと動物好きだった私がそう思うようになるのは、自然のことだったと思います。が、身近で獣医師さんたちの働いている姿を見る機会が多かったことも大きく影響しているかもしれません。

小さいころ、牛の出産に立ち会ったことがあります。

私の家では牛を飼っていましたが、いつも検査などをしてくれる獣医師の先生のお手伝いをすることもありました。牛の体の中に腕ごとカメラを入れて映像を見ながら検査をしたり、注射をするたびに暴れる丑を押さえつけるなど、大変そうだなと思いました。ですが、私が丑の出産時に見た光景はそれをはるかに上回っていました。

「私たちが子牛の脚を引

張るから、皆はこつちを押さえ

て！」

生まれてくる子牛を引つ張り出している獣医さんと、暴れる母牛を必死に押さえつけている大人たちの姿。一人は顔を、一人は体を押さえ、二人で子牛の脚を引つ張る。バタバタと忙しない空気の中、母牛の荒い息や苦しそうな鳴き声が聞こえてきます。子牛が間れた後も、母牛や子牛に必要な処置をしたり、とにかく大変そうでした。いつ

もなら、「私も手伝う」と声をかけますが、その時はただ立って

みていることしかできませんでした。目の前の獣医さんのように、必要なことを次々とできた

なら、牛に苦しい思いをさせることもなく、獣医さんの力にも

なれたかもしれない。その時から獣医になりたいという夢を持つようになりました。

飼っていた犬の命を助けて

いただいたこともありました。床

に落ちていた布を誤って飲み込んでしまい、ご飯を食べられずに弱った犬を病院に連れていくと、「すぐに手術が必要だ。」と慌てた様子で言われました。

「大丈夫だよ。犬はちゃんと

元気になるよ。」と不安でいっぱいだった私たちに声をかけてくださいました。手術が成功した

時は、安心と感謝、そして尊敬

の気持ちがありました。

今、私は中学三年生。夢の実

現に向けて具体的に行動するよ

うにしています。一、二年生のころに比べると、家で勉強する時間も増え、ノートの取り方やまとめ方も工夫できるようになりました。やってみたいと思つたことには積極的に取り組むようにしています。

この「少年の主張」にも自分

から参加しました。

しかし、主張文を書いている

とき、先生に「獣医になるには他にどんな努力が必要か。」と問

われ、固まってしまいました。

自分は十分に努力しているつもりでした。他にとはどういう意味なのか。まったく思いつきませんでした。

その時頭に浮かんだのは、あ

の獣医の先生たちの姿でした。

皆、真剣な顔で必死に目の前の動物に向かっていました。的確に指示を出しながら、表情には

目の前の命を絶対に助けるとい

う使命感と緊張感が溢れているように思えました。

命とは、簡単になくなつてしま

うものであり、奪ってはいけないもの。命を扱うということ

は丁寧に責任をもって命を預か

るということ。その命と向き合

うには相当な知識と覚悟が必要

だと、いまさらながらに気付きました。

私の将来の夢は獣医師になる

ことです。けれど、これから獣

うという気持ちを少しでも持つ

ているかと聞かれたら、今はま

だ持っています。

今私にできることは、身近な

命を大切に、自分ができると

に精一杯努力することです。

当たり前のことですが、「命と向

き合う覚悟」を意識することで

今までとは違う気づきが得られ

ると思います。

今、自分が何をすべきかを

常に考え、精一杯努力ができる

ようになりたいです。

皆さんの将来の夢は何ですか。

私の将来の夢は獣医師になる

ことです。



優良賞を受賞した二名

